

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
商品知識 Goods Knowledge		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
阿部芳子	社会福祉棟・3F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
商品の素材・品質・取り扱い・流通などの多種多様な側面を理解しておくことは、生活者としても需要である。消費者・生活者・販売員として、トラブルに巻き込まれない健やかな暮らしの知識をもつことを目指す。				
授業の目標				
素材の品質管理、品質管理活動、物流管理などを学ぶことができる。消費者・生活者・販売員として消費社会の多様なトラブルを未然に防ぐ知識を持つことができるようになる。				
授業の方法				
実物資料で素材・品質・取り扱いなどの理解を深める。今日の問題事例やクレーム処理の実例を紹介しながらすすめる。毎回テーマが異なる提出物をまとめることで、知識をさらに高める。学外授業にて実際に学ぶことも計画する。				
学習の成果（学習成果）				
適切な商品知識を持ち、素材選びや品質管理ができるようになる。ファッション販売業務ではクレームなどの相談にのることができるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス ・生活用品の材質、加工法・品質の違い ・衣料素材の理解①			
第2回目	衣料素材の理解② 素材の鑑別 表示 天然素材（綿・麻）			
第3回目	衣料素材の理解③ 素材の鑑別 表示 天然素材（毛・絹）			
第4回目	衣料素材の理解④ 素材の鑑別 表示 化学繊維 各種加工 改質加工 付加加工			
第5回目	衣料品の理解 構成			
第6回目	衣料品のラベル・タグ表示、			

第7回目	生活用品の品質と取り扱い、加工、 価格との関係	
第8回目	消費者保護、行動情報	
第9回目	企業の対応 各種事例から学ぶ。	
第10回目	消費生活と消費者教育・商品テスト	
第11回目	消費生活と環境問題・リサイクル問題	
第12回目	洗濯・クリーニングのマークと取り扱い、クリーニング事故例	
第13回目	最近の問題事例から 地域の「消費者センター」について	
第14回目	インターネットの落とし穴 契約トラブル	[ テ ス ト ]
第15回目	ライフプランの知識 I Tの問題	まとめ
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	実習を交えた授業に、まじめに取り組み、教員の設問にきちんと解答し、自分の考えをまとめることができたか。
レポート	20%	自らの考えでまとめ、内容にあった提出物となり、期限に提出されているか。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	内容を理解し、設問に答えられたか。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
アパレル素財論（文化出版局） 2010生活ハンドブック（第1学習社） プリント配布		
履修上の留意点・ルール		
日頃から、商品の素材や品質、ラベル標記に関心を持ち、収集しておく。新聞等の記事に関心を持つことを望む。毎回異なる内容の提出物の提出期限に注意すること。		